

世界一の旅行博士

北濤野人

大かた諸媛は母さまや姉さまからお聞きなすつ

てご存じで居らつしやいますでせうが、昔々カチ

く山に鬼の仇伐があつたと言ふ話で、いりますが

其カチカチ山に仇伐があつた頃よりも、又桃太郎

と申す強い少年が數多の家來を率き連れまして鬼

が島に凱旋を上げたと言ふ頃よりも、もつとく

大昔の大昔に嘘太郎と呼ぶ旅行好きな少年があり

ました。

さて此の旅行好きな嘘太郎が、或る正月の二

日の晩に紙折りの寶船を枕の下へ入れて今年こそ

は何にか好い初夢を見たいものだと思つて寐みま

した。宵の内は何んな初夢を見るだらう、好い初

夢を見れば好いがなぞと種々考へて居ましたが次第々々と夜の更けるに随つて何時とはなく前後も知らずに、グーーと鼻鳴を立てゝ眠つて仕舞いました。

『嘘坊や、嘘坊や、夜が明けた、夜が明けた。』

といふら起すので嘘太郎は、ハツと思つて眼を覺しますると恰も『嘘坊やふ天氣が好いから早く起きてお遊び、他の兒はもう紙鳶上げや、獨樂廻しをして遊んで居ますよ。』と言はねばかりに、朝

日のゆるやかなる光がゆつたりと庭樹の枝を障子へ映して居るばかりで、邊には誰も居りません。

『なんだ夢か馬鹿にして居らア、こんな初夢なんとか本統につまらないやア。』

と布團の中へぬくくとむぐり込みました。

すると又。

「コラ嘘坊や、眠むらずに起きろ。」

と言ふので嘘太郎は、誰が言ふのか知らと思つてソツと布闌の下から顔を出して見たが、誰も居ない。又布闌の中へむぐり込むと。

『嘘坊や、起きろ、早く起きろ。』

と言ひますので、嘘太郎は、氣味が悪くなつたものだから、ソロツと起き出さうと思つて頭を擡げますと。

『コラ嘘坊、起きろッ。』

と言ひ乍ら、今度は頭をコーンと撲かれましたで驚きはらつて飛び起きると、ぱろ／＼の衣を着た白髪の老爺が後でチヤント座つて居ります。

嘘太郎は見知らぬ老爺なので吃驚いたしましたが態と驚かない様子をして。

『やー俺の頭を撲いたなア。』と眞赤になつて怒り

出しました。

けれども老爺は平氣なもの。

『嘘坊や、周章ずに、まあ此處へ座はりや。』

『フウ、可笑な老爺だな、人の頭を撲たり嘘坊嘘坊って何んだい。』

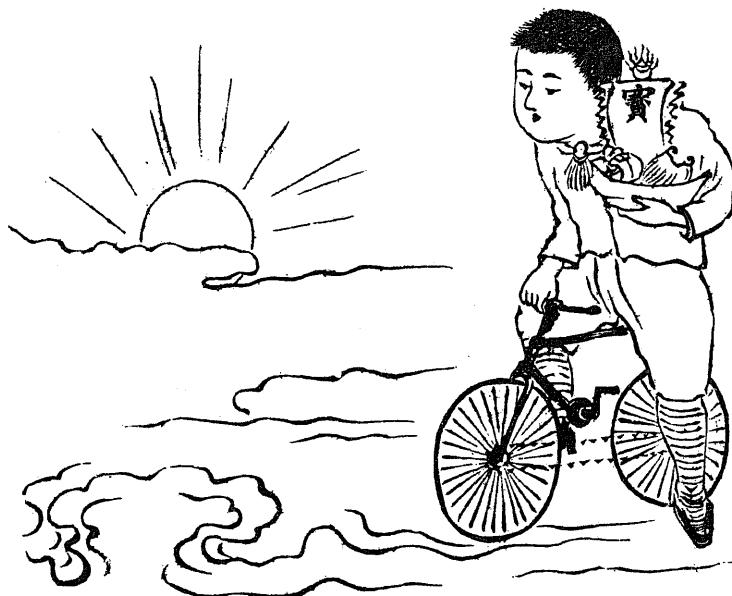
『ハ、ハッ／＼ハ、ハ嘘坊々を怒るな／＼お前は旅行が好きだと云ふが何麼だい一つ日本の國の大名譽になる旅行をしては。』

旅行好きの嘘太郎ですから、旅行と聞いたので何んにもかんにも忘れて

『日本の大名譽になる旅行つて爺さん何處へ旅行するんだい。』

『さアそれか、それはお月様の世界から金星、木星、火星を始めズツと遠くの海王星あたりまでさ。』

『そいつは愉快だな、だが爺さんお月様の世界や



お星様の世界へ行かれないぢやないか。』

『これさへありやア幾らでも樂に行かれんんだ。』  
と言ひ乍ら老爺は懷の中から小さな舟と車を出し  
て嘘太郎の前へ揃へまして。

『この舟は千里舟といふので、こつちが千里車と  
言ふのだ、よいか海か河か湖かあれば此舟を浮  
べてお前の左足をかけて。

正月二日の初夢に夢は見もせで千里舟、千里車  
に打ち乗りて、大日本帝國の大名譽をきたすべく  
今度月界星界を旅行博士の嘘太郎。エンヤラヤー  
ンのヤン。』と拍手を三度すれば一走りに千里づ  
此舟が走るんだ。又陸ならば此車に右足をかけて  
前の様に言つて拍手さへすれば一走りに千里づ、  
走るんだ、何うだ嘘坊行つて見る氣はないか。』  
『やーそれは面白じいな、ぢや爺さん俺が行つて來

よう。』

と嘘太郎が言ひますと爺さんも大さう喜んで、『ぢやこれから直ぐ行つて來てお吳れ、お前がお月様の世界の様子や、お星様の世界の様子を歸つて來て天文學者の先生達に委しくお話したなら、何れ位先生達が喜ぶか知れやしない、さうすれば日本の大名譽ばかりぢやなくて、この地球の名譽にもなる事だから行けるだけ行つて百萬年過つたら歸つて來るんだよ。』

『あ一百萬年過ちや歸つて來るさ、本統に面白さうだな、ぢや爺さん行つて來るよ。』  
と嘘太郎は千里舟を抱いて、千里車に右足をかけまして爺さんに教はつた通りに。  
に打ち乗りて、大日本帝國の大名譽を來たすべく

二十

今度月界星界を旅行博士の嘘太郎。エンヤラヤンのヤン。』と拍手をしながら出だして行きましたのが丁度今年から百萬年の昔に當ります。なんでもこの正月の三日の日には、嘘太郎は白髪の爺さんとなつてお月様やお星様の旅行から日本の國の

何處かへ歸つて來て居るでせう。めでたしく

### 笑ひ草

不思儀な勘定

一人連れて新橋の停車場へ着くと、車夫が車『旦那、二人乗りで淺草までお供致しませう』？

二人『淺草まで何里あるかなー』？

車『へー 彼れ是れ一里もありませう』

二人『じゃ一譯さやねー 歩いて行くべー 一人